

## 新深江駅(地下鉄千日前線)

## ものづくり1300年! 菅笠の深江へ



「大阪あそび歩マップ集」  
その2 No.085

## 地下鉄新深江駅

## ①暗越奈良街道

暗越奈良街道は、古代から難波と奈良とを最短距離で結ぶルートとして知られていました。暗峠(標高455メートルの峠)を越える急勾配の厳しい街道ですが、ここは初代天皇の神武天皇が通ったという伝承があり、東成区には「神路」というような地名なども残っています。

## ②釜師・角谷家

河内方面は、古代は河内湖で、やがて淀川や大和川の土砂が堆積して陸地化していきましたが、その中には鑄物に適した良質の土砂もあり、中世には河内鑄物師という職人集団の活動拠点にもなりました。釜師・角谷家は明治18年(1885)ごろ、初代巳之助氏(1869~1945)が創業したもので、2代目の一圭氏(1904~99)は伊勢神宮式年遷宮御神宝鏡を制作して、昭和53年(1978)には人間国宝に認定されました。

## ③深江稻荷神社

鑄物御祖神社の別名もあります。大和に住んでいた笠縫部の氏神で、笠縫部はのちに深江に移って菅笠を生業としました。深江の菅笠は「縫いつたる ころろ 深江の菅こがさ あめの下にぞ名はみちにける」(千種中納言)



と歌われたほどの名物で、現在も伊勢神宮式年遷宮の御神宝の菅御笠を調進したり、天皇家の大嘗祭に使用する笠も深江から天皇家へ献上されています。

## ④菅田(深江郷土資料館)

江戸時代に伊勢参りが流行ると、大勢の旅人が「大坂はなれて早や玉造 笠を買うなら 深江が名所ヤートコセ、ヨーイヤナー」と伊勢音頭を歌いながら、深江で菅笠を買って賑やかに旅をしました。菅には浄化の働きがあると信じられていたので、人々は道中安全を祈願したわけです。現在は地元の有志住民が「深江菅田保存会」を結成して菅田の復活、保全に努めています。



## ⑤法明寺・雁塚

文保2年(1318)、法明上人(1279~1349)が開基しました。境内に雁塚があります。「その昔、清原刑部丞正次という弓の名手が冬の日に狩りに出かけ、雄の雁を射ち落としますが、なぜか雁には頭がありません。周辺を探したが見つからず、そのまま帰りました。次の冬に狩りに出て雌の雁を射ち落とすと、羽の下から乾いた雄の雁頭が出てきた」という話を聞いた法明上人が雁の夫婦愛に心打たれ、その冥福を祈るために石塔を建立したものです。

## ⑥段倉

深江はかつては河内湖で低湿地帯で湿気が多く、少しでも雨が続くと洪水が起こって水に浸かりやすいので、石を高く積みあげた倉(段倉)が生まれました。古き良き深江村の風景をいまに伝えてくれています。

## 地下鉄新深江駅

